

全クラス／審査員：HP・フェッテン (SV) 副審：山田哲也 (SVJ)		
◎成犬牡組 (申8・出7頭)		
単独VA1	アトス aus アグリгент	所：山田久任子 愛 知
VA2	ナップ vom ヴォールスタント	所：大日方健司 東 京
V1	ジャステス of・リュウタチカワワイルド	所：白石 幸豊 神奈川
V2	ラトヴィン von ハカタカキノキ	所：角南富美恵 岡 山
V3	シャノ vom ヴィンロー	所：吉本 教治 兵 庫
SG1	ウィル v・H シホ	所：大畑恵美子 京 都
G1	エテルナルバンク of・セイクレッドウルフ	所：船津 雅幸 静 岡
◎成犬牝組 (申・出11頭)		
単独VA1	アニー v・d・シュロスブリュンネン	所：小林 龍彦 東 京
VA2	クヴィーナ vom ヒューネグラープ	所：楠 和歌子 奈 良
V1	ブレンド von シェーンハイトゼー	所：名倉 克己 静 岡
V2	アリエル von タックル	所：吉本 教治 兵 庫
V3	ゼバルダ v・ハカタカキノキ	所：山田久任子 愛 知
V4	マミー v・d・ロードデンドロン	所：鳥巢 要道 福 岡
V5	カーリン von ドルフエリッヒ	所：折笠 正美 東 京
V6	トニー von ウーファ727	所：河村 満弘 大 阪
V7	ケニー of・ホークウイングヨーコ	所：名倉 克己 静 岡
SG1	ニンジャ von キョートマスタ	所：森 慶子 滋 賀
SG2	ウルメ vom ヒューガイワキリソウ	所：角南富美恵 岡 山
◎未成牡組 (申・出2頭)		
単独SG1	ニコー v・d・ヴァルトグラーベン	所：鳥生 清哉 兵 庫
SG2	ダーク von ミヤザキシモダ	所：齋藤 孝 愛 知
◎未成牝組 (申・出7頭)		
単独SG1	フィナ vom カワシマルフジソウ	所：大石 俊雄 静 岡
SG2	ウルマ v・d・ハウメイフルス	所：山田 一美 三 重
SG3	ベティ v・d・シュロスブリュンネン	所：山田久任子 愛 知
SG4	ゲルマ vom グロスゾンネ	所：大日方健司 東 京
SG5	リンカ von ビルダー	所：森原 国雄 山 口
SG6	デージー von シェーンハイトゼー	所：名倉 克己 静 岡
SG7	ジェラン of・リュウタチカワワイルド	所：田口 幸由 神奈川
◎若犬牡組 (申・出2頭)		
単独SG1	ヴィクトール v・d・ハウメイフルス	所：高岡 政義 福 岡
SG2	パクロス vom シュテーアウフメンヒェン	所：服部 富雄 三 重
◎若犬牝組 (申7・出6頭)		
単独SG1	パルメ v・d・ワールドグラーベン	所：鳥生 清哉 兵 庫
SG2	フィナ v・H・ミネコ	所：萩原佑二郎 静 岡
SG3	ファーナ v・d・ハウメイフルス	所：高岡 政義 福 岡
SG4	ザーガ von ビゼンヒュッテ	所：森原 国雄 山 口
SG5	リリー von ビゼンヒュッテ	所：岩本 茂信 兵 庫
SG6	マーヤ von サクシュウムサン	所：河部 知己 岡 山
◎幼A牡組 (申・出3頭)		
vv1	マリオ of・リュウタチカワワイルド	所：井上 和政 神奈川
vv2	ミシュラン of・リュウタチカワワイルド	所：笠原 江利 神奈川
vv3	ユンゴ v・H・パンモ	所：阪本 成徳 岡 山
◎幼A牝組 (申・出5頭)		
vv1	ライカ of・リュウタチカワワイルド	所：小林 龍彦 東 京
vv2	フォーラ von ウーファ727	所：宮本 幸春 熊 本
vv3	フレア von シェーンハイトゼー	所：名倉 克己 静 岡
vv4	ユリー von ライチャーベルク	所：齋藤 孝 愛 知
vv5	ノルネ von サクシュウムサン	所：河部 知己 岡 山
◎幼B牡組 (申9・出8頭)		
vv1	ニコール of・リュウタチカワワイルド	所：稲葉 清志 静 岡
vv2	クアトロ vom シュテーアウフメンヒェン	所：岸 勝驥 三 重
vv3	ニコラス of・リュウタチカワワイルド	所：小林 龍彦 東 京
vv4	ネグス of・リュウタチカワワイルド	所：田口 幸由 神奈川
vv5	アマラー von オーサカトリウ	所：鳥生 清哉 兵 庫
vv6	ナロー of・リュウタチカワワイルド	所：小林 龍彦 東 京
v1	Gーロルフ of・セイクレットウルフ	所：木川 武光 静 岡
v2	Gードラック of・セイクレットウルフ	所：木川 武光 静 岡
◎幼B牝組 (申4・出3頭)		
vv1	ナターシャ of・リュウタチカワワイルド	所：小林 龍彦 東 京
vv2	ノア of・リュウタチカワワイルド	所：笠原 江利 神奈川
v3	Gーレア of・セイクレットウルフ	所：木川 武光 静 岡
◎幼C牡組 (申1頭) 欠席		
◎幼C牝組 (申・出2頭)		
vv1	グレース von キョートマスタ	所：大畑恵美子 京 都
vv2	デージー von オーサカトリウ	所：鳥生 清哉 兵 庫

SVJ Siegerschau

SVJ発足記念展覧会が盛大に開催される!

WUSVシンポジウム翌日の2月23日(日) 空気は冷たいものの快晴の中で、ダイヤモンド滋賀ホテル施設内のサッカーグラウンドにおいて、ドイツシェパード犬を愛する愛犬家・訓練士が全国から参加して、SVJジージャー展が盛大に開催された。締切り時点で72頭の申込みがあったが、ヘンケ会長が憤慨した妨害工作によって締切り後に11頭がキャンセル。それでも61頭(理由のある欠席5)実数56頭。長毛クラスなしと幼Cクラスは2頭のみということを考えれば、近年の展覧会としては上々の出陳頭数と言えるだろう。

これがSV審査だ!

全クラス全犬を審査したSVフェッテン審査員は「スムーズ、的確、丁寧、一頭一頭に説得力のある講評」の三拍子も四拍子も揃ったスーパージャudgingで、分刻みの主催者作成のスケジュールをSVJ山田哲也審査員とともに完璧にこなした。特に成績末尾の犬に対してはなぜ今日はこの席次(評価)なのかを丁寧に説明。早くもリンクサイドからは次回もフェッテン審査員でのリクエストがあったが、フェッテン氏は今年70歳で(とても70には見えない)12月31日でSV審査員の職務は定年となる。ちなみにフェッテン氏は今年が最後ということでSVジージャー展での若犬牡クラスを含むドイツ国内と世界中で46回!審査をするのだそうである(一年52回の週末の内46回審査!日本に来る前週はスペイン!前々週はマレーシア!)

効率の良い一審制

スケジュール通り8時半から幼C牝組より一審制で開始された(一審制は審査が省略されると勘違いする人がいるが、二審制と全く同じ。個体審査と比較審査の間に時間を設けないだけ。少ない頭数なのに大勢の審査員で二審制にすると展覧会というイベントが間延びしてしまうし、時間のロスも多い。ドイツでもSVジージャー展以外は、ランデス展でも1名ないしは2名の審査員での一審制であり、SVJ主催の展覧会は今後も基本的に一審制で開催されるとのこと)。幼C牝はグレースvonキョートマスタ(京都・大畑恵美子さん愛犬)、幼Bクラスは牝がナターシャ(東京・小林龍彦氏繁殖・愛犬)、8頭が出場したB牝はニコール(静岡・稲葉清志氏愛犬)のいずれもリュウタチカワワイルドの繁殖犬が制した。幼Aクラスにおいても牝はライカ(東京・小林龍彦氏繁殖・愛犬)、A牝はマリオ(神奈川・井上和政氏愛犬)の幼Bクラスに続いて牝牝ともにリュウタチカワワイルドの繁殖犬が制した。この1年未満のクラスには幼犬専用の評価があって、日本では幼犬クラスでもSGやGの評価を与えているが、それはSVの規定違反となり、今後は幼犬クラスにはvv、v、wvという評価が用いられるとのこと(展覧会評価とTSB評価はSVJホームページwww.wusv.jpのアーカイブで詳しく紹介されています)。6頭が出場した若犬牝はパルメv・d・ワールドグラーベン(兵庫・鳥生清哉氏愛犬)、若犬牡はヴィクトールv・d・ハウメイフルス(福岡・高岡政義氏愛犬)が1席を獲得し、若犬クラスからは単独のタイトルが与えられた。

SVスタイルでの防衛

午前中は幼C組から若犬牡組までが審査され、お昼休みにはホテルの調理人が会場横で暖かいカレーを展覧会全参加者に振舞った。そしてリンク横のサッカーグラウンド半面を使用したSVスタイルで、成犬クラス牡牝全犬の防衛(TSB)が、大勢のギャラリーと、ヘンケ会長、ルックス事務総長も見守る中で、2011年WUSV韓国アジアジージャー展でも防衛を担当した、アジア唯一のSV訓練審査員益田氏によって審査され、評価講評もSVスタイルにて1頭ごとに直ちにマイクで発表された。



防衛が終了した後は、未成犬牝から審査が再開された。7頭が出場の未成犬牝は、逆転でフィナvomカワシマルフジソウ(静岡・大石俊雄氏愛犬)、未成犬牡はニコーv・d・ヴァルトグラーベン(兵庫・鳥生清哉氏愛犬)がそれぞれ単独1席を獲得。

S犬新時代の記念すべき展覧会で 牡二頭牝二頭が本物の“VA”に輝く!!

成牝はアニー、成牡はアトスが単独VA1席を獲得!

最多の11頭が出場した成犬牝クラスは、ピックアップでは5番手だったアニーv・d・シュロスブリュンネン(東京・小林龍彦氏愛犬)が、抜群の歩容で順位をどんどん上げ、最終盤のノーロープ歩行の場面で、それまでトップだったクヴェナvomヒューネグラープ(奈良・楠 和歌子さん愛犬)を逆転で制して単独VA1席に輝いた。クヴェナvomヒューネグラープも最後に逆転はされたもののVAの称号を獲得し、記念のウイニングランの後、両犬はヨーロッパから輸入されたクリスタルのVAカップを、ヘンケ会長とルックス事務総長より贈呈された。メインイベントの成犬牡クラスには7頭が出場。2013年のSVジージャー展で直仔が上位入賞(未牡でPatmisandがSG5席、若牡ではDesperadosがSG2席等)して、ナッハコメンで大絶賛されたアトスausアグリгент(愛知・山田久任子さん愛犬)が、取扱の柿木訓練士との抜群の防衛と貫禄の走りを見せて、終始トップの座を譲ることなく単独VA1席に。続くVA2席にはフェッテン審査員が「この犬はドイツで生まれたのか?」と確認するくらいドイツ産と比べてもなんら見劣りしない、ナップvomヴォールスタント(東京・大日方健司氏愛犬)が選出され、牝クラス同様にウイニングランの後にクリスタルのVAカップが、ヘンケ会長とルックス事務総長より贈呈された。

新たなるS犬の歴史にレジェンドが刻まれた日

温泉付の豪華ホテルに特別料金で宿泊して、翌日、歩いて行ける展覧会場。広告のない目録。出場頭数から割り出された分単位の完璧な進行。出陳全犬に世界中で通用するSV審査員署名入りの展覧会評価証明書の発行(SVが発行しているものに日本語訳が書き加えられたもの。将来はこれが必要ならば繁殖ができない!)。トロフィーやロゼットに代わってメダルの授与。数々の改革をまるでマジックのようにやってのけたSVJ。参加者に「とても勉強になった楽しい展覧会」と言わせしめたSIEGERSCHAU(ジージャーショー)は大成功のレジェンドを刻んだ。